

## 鎌倉名越切り通しと逗子の文学

天気も良く、今日は藤沢市民病院に妻の見舞いにも行かないので自転車で遠出したいと思う。妻が入院している藤沢市民病院の方角は気が向かない、そうすると選択肢は江ノ島&茅ヶ崎方面か、鎌倉&逗子方面となる。逗子の森戸溪谷を目指して出発する。途中気が変わったらそれもよし(図1)。

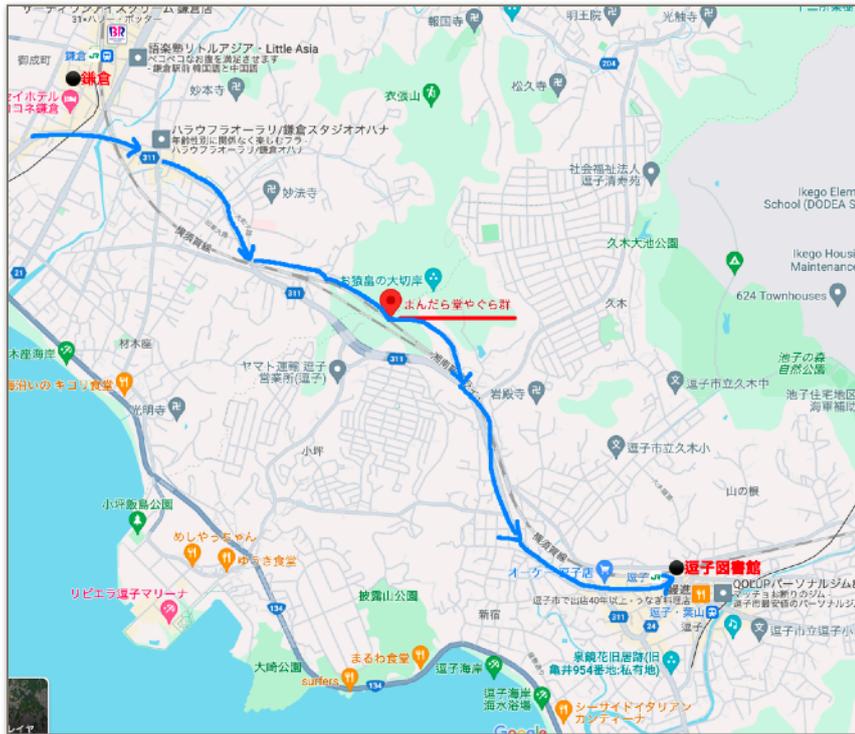


図1 鎌倉から名越切り通しを経て逗子へ

### 1.名越切通は三浦半島へ通じる道

鎌倉大仏前を通り、長谷寺の前を左に曲がり下馬の交差点を横切り大町に入った。ここは妻香月子が幼少の頃過ごした材木座に近い。磯部家は大町に山林を持っている。ただし、鎌倉は全土が歴史文化保護地域なので土地開発ができない。今、一生懸命に税理士である弟が処分している。芥川龍之介が横須賀の海軍で英語の教師をしていたころ、新婚の時代に大町の元八幡（京都からもってきた八幡宮の元）付近で暮らしていた。

横須賀線の踏切を渡る時、フト脇道を見ると”名越切通し”へ通じる路地があった。ここは2年前に日蓮ゆかりの鎌倉の名水の井戸(日蓮乞水(鎌倉五名水))を見学したことを思い出した。その時は名越切通しまでは行っていない。今日はここを通ろうと決めた。

細い道を進み、再び横須賀線の踏切を渡ると右側に急峻な名越切り通しに至る狭い道がある。コンクリの道路に溝が切つてあるほどの急騰である。自転車を降りて押し歩きする



図2 名越切り通しの下を通過する横須賀線と富士山

と横須賀線のトンネルの上に出た。雪を被った富士山がよく見える。電車ならこの名越の切り通し もトンネルで5秒足らずで抜ける。昔は鎌倉から三浦半島の付け根の逗子に行くにはこの切り通しの山道を超えて行った。横須賀線の電車が来るのを待ち富士山をバックに写真を撮った（図2）。

自転車を押して、担いで山道を登る。幸いこの自転車は折りたたみで12kgだから運べないことはない。ただ、足元が岩や狭い階段で不安定だから踏み外して捻挫でもしたらやっかいだ。数分で名越の峠(図3)についた。ここから幾つか分岐道がある。自転車を置いて大切岸展望広場方面に歩いてみる。一人で静かに歩いていると前方にガヤガヤとシニアの団体が見える。こういう団体は苦手だ。引き返す。途中、金髪の外人の夫婦に出会った。ここの住んでいる？ 観光客が来る場所でもない。

## 2. まんだら堂は恐ろしい雰囲気

切り通しを抜けると鎌倉時代のお墓跡のまんだら堂

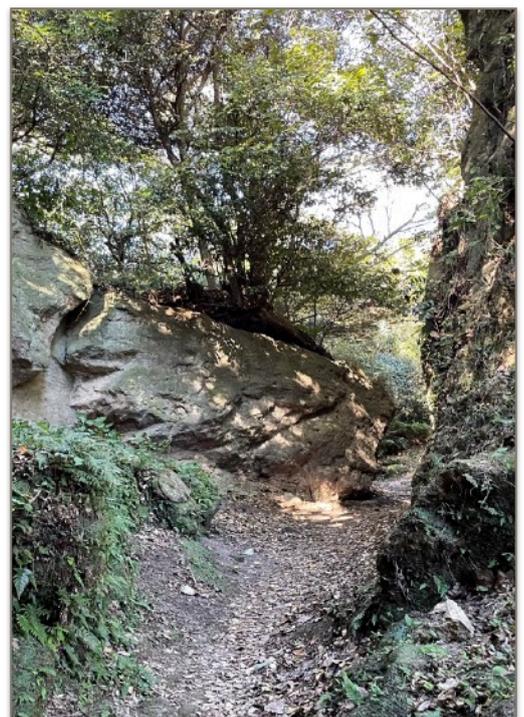


図3 狭い名越切り通し

にでる。今日は公開日なので近くまで行ける(図4)。砂岩の崖の中腹に幾つもの穴(やぐらいと言う)がある。これが横穴式のお墓である。逗子市が管理しており普段は鉄網があつて中に入れない。担当のシニアボランティアが無料のパンフレットをくれ、ぜひ展望台まで登って写真を撮るように勧めてくれた。展望台には一人、35歳ぐらいの外人の女性がいた。こんなところも穴場として外人観光客が来る。驚きである。鎌倉の研究家かもしれない。

お墓は全部で大小合わせて150基以上あるという。ここのお墓がある人は身分が高い人と書いてあった。昼間の明るい時なら良いが、日が落ちて暗くなったら恐ろしい。鎌倉武士の霊が出てきそうである。耳なし芳一の話思い出した。



図4 鎌倉時代のお墓 まんだら堂

### 3.逗子図書館の文豪コーナー

山を降りて京急の逗子駅を通過すると突然ガラス張りのカッコ良い建物が現れる。逗子文化プラザ 市民交流センター、この中に図書館が入っている。初めて入ってみる。知らない土地の図書館は面白い。必ず郷土の歴史文化のコーナーがあつて、短時間で土地なりを勉強できる。案内によると今、逗子にゆかりがある文豪達の展示館をしている(図5)。展示会と言っても3畳ぐらいのスペースに本や書画、写真を並べてある簡単なものだ。知らない作家が大勢いる。福島さんなら知っているかしら？

土屋花情かじょう

多田祐計ゆうけい

徳富蘇峰そほう

徳富蘆花ろか

永井荷風かふう(名前は聞いたことがある)

中里恒子つねこ

なかにし礼(歌謡曲の作詞家として知っている)

中村岳陵がくりょう

林京子きょうこ

辺見備よう

堀田善衛よしえ

吉村公三郎こうざぶろう



図5 逗子市とゆかりがある文豪

奥の格式高い郷土の歴史コーナーには石原慎太郎と校友会関係の小説家から送られた本を展示してあった。石原慎太郎は逗子を舞台に青春の葛藤を描いた作品『太陽の季節』を書いた。石原慎太郎に自分の本を送ったサイン入りの本があった(図6)。名の知れた文豪の自筆の文字を見るのは初めて、みんな字が上手い。私は悪字なので恥ずかしい。以下の人の本が展示してあった。

瀬戸内寂聴(超有名人)

宇野千代(知らない)

曾野綾子あやこ(文化人として名前は聞いたことがある)

山口淑子よしこ(スパイ?として知っている)

園地文子(知らない)

河野多恵子たえこ(知らない)

## 佐藤愛子(知らない)

山口淑子は李香蘭として聞いたことがある。この手の話は母親が好きでした。第2次世界大戦、中国大陸と関係する文豪は山口淑子だけではない。それほどあの当時は大陸に渡った日本人が多かったようだ。なかにし礼も満州生(中華人民共和国 牡丹江市)まれでした。

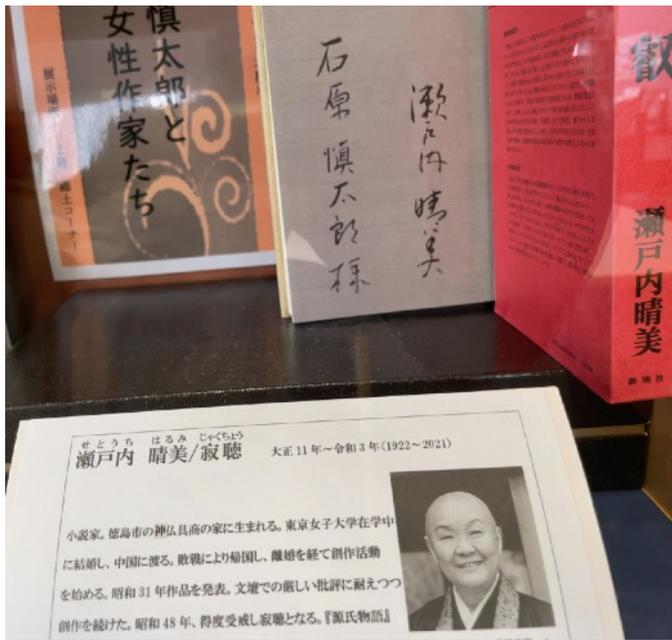


図 6-1 瀬戸内寂聴の本

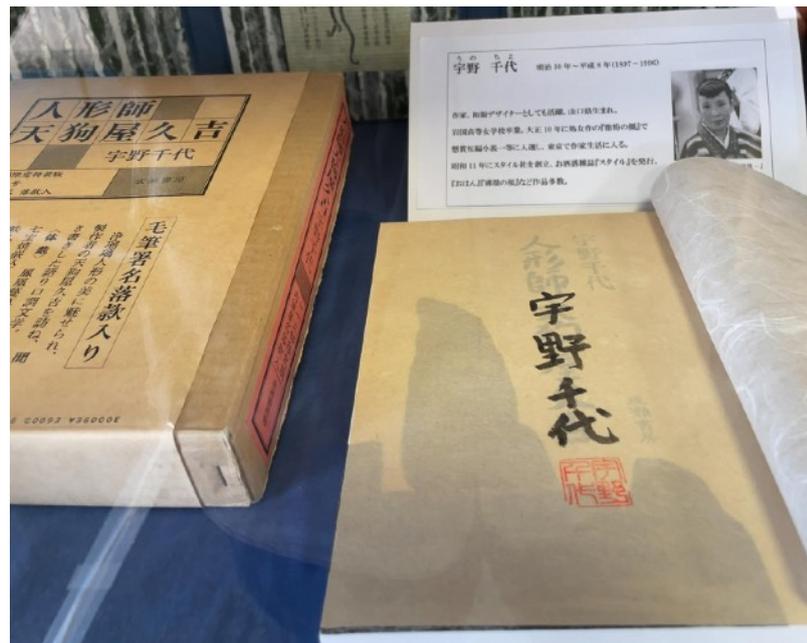


図 6-2 宇野千代の本



図 6-3 曾野綾子の本

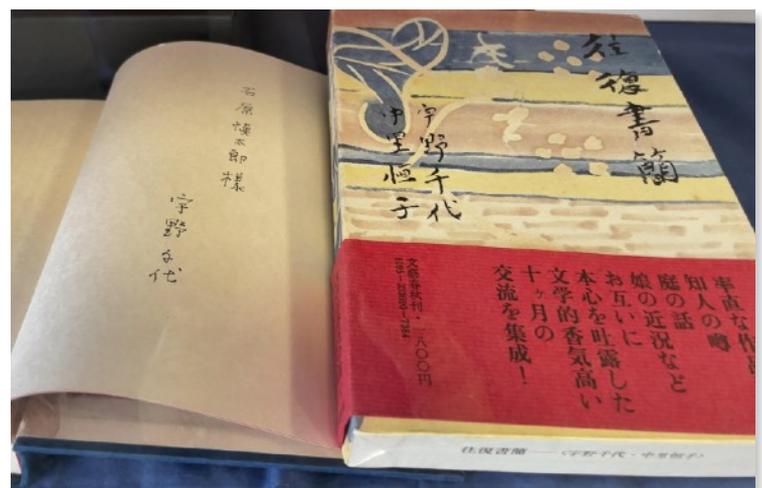


図 6-4 宇野千代の本



図6-5 山口淑子の本

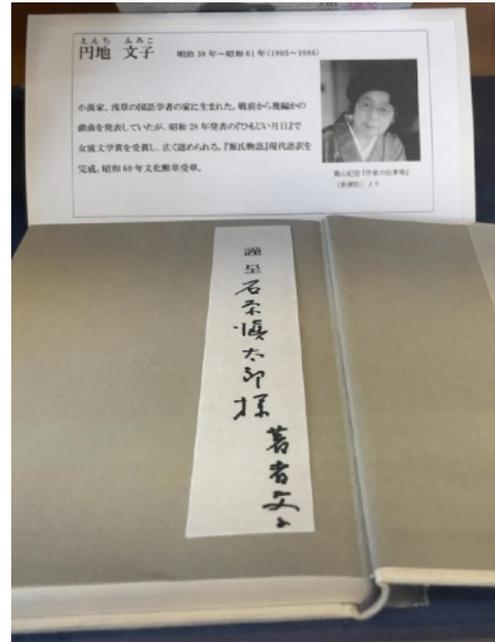


図6-6 円地文子の本

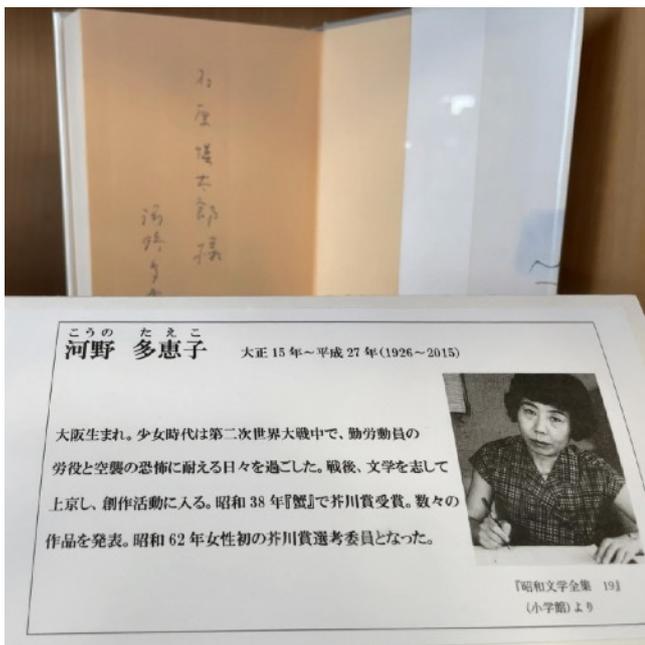


図6-7 河野多恵子の本

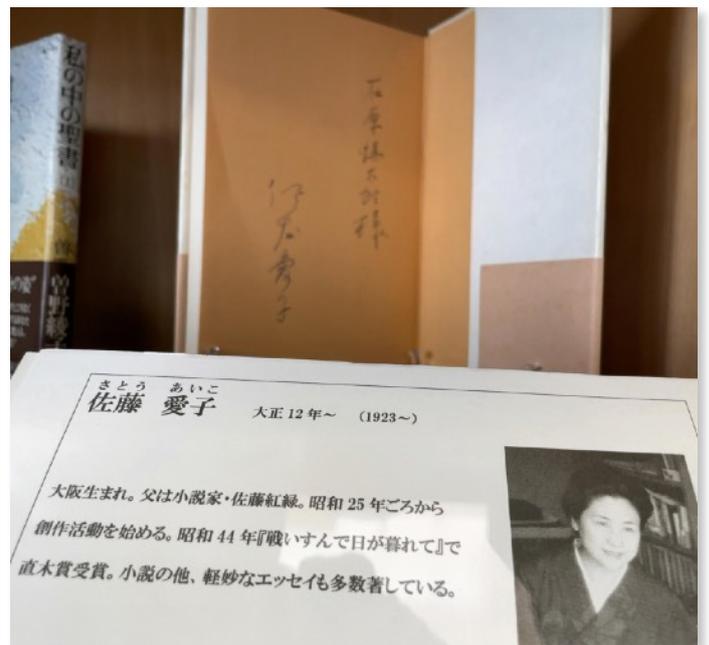


図6-8 佐藤愛子の本



図7 徳富蘆花の作品コーナー

逗子に「蘆花記念公園」があり一般公開している。代表作「不如帰」を  
読んでみようか?古い文体に我慢できるか?と思う



図8 逗子海岸にある石原慎太郎の「太陽の季節」の碑  
作家も1本当たると、それで長らく食っていける。

